

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月3日
【四半期会計期間】	第135期第3四半期（自平成25年10月1日至平成25年12月31日）
【会社名】	株式会社弘電社
【英訳名】	The Kodensha, Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 内山 安政
【本店の所在の場所】	東京都中央区銀座五丁目11番10号
【電話番号】	03-3542-5111（代表）
【事務連絡者氏名】	総務部長 山名 克英 経理部副部長 石塚 好雄
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区銀座五丁目11番10号
【電話番号】	03-3542-5111（代表）
【事務連絡者氏名】	総務部長 山名 克英 経理部副部長 石塚 好雄
【縦覧に供する場所】	株式会社弘電社大阪支店 （大阪市中央区淡路町一丁目7番3号） 株式会社弘電社横浜支店 （横浜市西区北幸一丁目11番11号） 株式会社弘電社千葉支店 （千葉市中央区松波一丁目14番11号） 株式会社弘電社北関東支店 （さいたま市北区東大成町二丁目214番地） 株式会社弘電社名古屋支店 （名古屋市千種区内山三丁目10番17号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第134期 第3四半期 連結累計期間	第135期 第3四半期 連結累計期間	第134期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (百万円)	22,713	23,066	35,140
経常利益又は経常損失 () (百万円)	625	401	369
四半期純損失 () 又は当期純利益 (百万円)	431	283	196
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	424	150	298
純資産額 (百万円)	11,030	11,513	11,753
総資産額 (百万円)	23,798	24,660	26,281
1株当たり四半期純損失金額 () 又は1株当たり当期純利益金額 (円)	24.26	15.92	11.04
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	46.1	46.5	44.5

回次	第134期 第3四半期 連結会計期間	第135期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純損失金額 () (円)	5.69	4.37

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載したリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和による円安・株高基調が続く中、堅調な内需により企業収益は改善し、景気回復に向けての傾向が続きました。しかしながら欧州経済の停滞や新興国の経済成長鈍化などの要因により、先行き不透明な状況は依然続いております。

当業界におきましては、大型補正予算の実施に支えられた政府の建設投資が増加し、民間の建設投資も緩やかな回復基調で推移いたしました。建築投資の一部伸長はあるものの、震災復興需要を発端とする労務単価等のコスト上昇圧力や受注競争の激化により厳しい経営環境が続きました。

この様な状況の中、当社グループは顧客密着型の営業活動と採算性を重視した受注確保を最重要課題として活動した結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、連結売上高230億66百万円（対前年同期比1.6%増）と前年同期を上回りました。また利益面におきましても、施工方法の改善、施工品質の向上等による工事原価低減策や資材コストの圧縮、固定費削減策等の諸施策を強力に推進した結果、営業損失は前年同期に比べ2億13百万円改善し4億24百万円、経常損失も前年同期に比べ2億23百万円改善し4億1百万円となりました。また、四半期純損失も前年同期に比べ1億48百万円改善し2億83百万円となり、いずれも前年同期を上回る結果となりました。

各セグメント別の業績は、次のとおりです。

電気設備工事業

電気設備工事業では、着実に受注活動を展開した結果、受注工事高は185億54百万円（対前年同期比0.6%増）となり、また完成工事高も166億34百万円（対前年同期比1.2%増）と前年同期を上回りました。

商品販売事業

商品販売事業では、冷熱住設品や工場向け大型設備案件が前年同期に比べ減少しましたが主力の機器品は堅調に推移し、商品売上高は64億32百万円（対前年同期比2.4%増）と前年同期を上回りました。

また、種類別受注実績の内訳は、次のとおりであります。

	平成25年3月期		平成26年3月期		増減	
	第3四半期連結累計期間		第3四半期連結累計期間		金額 (百万円)	増減率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)		
屋内線工事	15,414	62.3	15,863	63.5	449	2.9
その他工事	3,031	12.3	2,690	10.8	340	11.2
工事部門計	18,445	74.6	18,554	74.3	108	0.6
商品販売	6,279	25.4	6,432	25.7	153	2.4
合計	24,725	100.0	24,986	100.0	261	1.1

(2) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は5百万円であります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月3日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	17,940,000	17,940,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株で あります。
計	17,940,000	17,940,000		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日		17,940		1,520		1,070

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 160,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,478,000	17,478	
単元未満株式	普通株式 302,000		
発行済株式総数	17,940,000		
総株主の議決権		17,478	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権1個)含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式910株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社弘電社	東京都中央区銀座 五丁目11番10号	160,000		160,000	0.9
計		160,000		160,000	0.9

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	2,569	2,124
受取手形・完成工事未収入金等	² 15,988	² 12,087
未成工事支出金	94	311
商品	277	366
短期貸付金	642	2,854
繰延税金資産	385	518
その他	420	333
貸倒引当金	4	3
流動資産合計	20,372	18,593
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	1,199	1,205
土地	888	964
その他(純額)	80	67
有形固定資産合計	2,168	2,237
無形固定資産	170	138
投資その他の資産		
投資有価証券	1,597	1,641
前払年金費用	1,221	1,334
繰延税金資産	301	299
その他	793	605
貸倒引当金	344	188
投資その他の資産合計	3,569	3,691
固定資産合計	5,908	6,067
資産合計	26,281	24,660
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	² 9,855	² 8,153
短期借入金	999	1,429
未払法人税等	170	0
未成工事受入金	796	942
賞与引当金	412	204
完成工事補償引当金	10	8
工事損失引当金	486	413
その他	610	776
流動負債合計	13,342	11,927
固定負債		
退職給付引当金	835	885
役員退職慰労引当金	141	139
その他	207	193
固定負債合計	1,185	1,218
負債合計	14,527	13,146

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,520	1,520
資本剰余金	1,070	1,070
利益剰余金	9,088	8,718
自己株式	44	45
株主資本合計	11,635	11,263
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	50	83
為替換算調整勘定	18	112
その他の包括利益累計額合計	68	196
少数株主持分	50	54
純資産合計	11,753	11,513
負債純資産合計	26,281	24,660

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高		
完成工事高	16,434	16,634
商品売上高	6,279	6,432
売上高合計	22,713	23,066
売上原価		
完成工事原価	15,024	15,066
商品売上原価	5,350	5,557
売上原価合計	20,374	20,623
売上総利益		
完成工事総利益	1,410	1,568
商品売上総利益	928	874
売上総利益合計	2,339	2,443
販売費及び一般管理費	2,977	2,867
営業損失()	638	424
営業外収益		
受取利息	6	10
受取配当金	8	12
受取家賃	56	60
その他	16	18
営業外収益合計	88	102
営業外費用		
支払利息	14	14
売上割引	21	24
賃貸費用	32	37
その他	6	3
営業外費用合計	75	79
経常損失()	625	401
特別利益		
固定資産売却益	-	13
特別利益合計	-	13
税金等調整前四半期純損失()	625	388
法人税等	193	110
少数株主損益調整前四半期純損失()	432	278
少数株主利益又は少数株主損失()	0	4
四半期純損失()	431	283

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	432	278
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12	33
為替換算調整勘定	5	94
その他の包括利益合計	7	127
四半期包括利益	424	150
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	424	155
少数株主に係る四半期包括利益	0	4

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」第19項の規定により、「中間財務諸表等における税効果会計に関する実務指針」第12項(法定実効税率を使用する方法)に準じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

次のとおり、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
従業員の住宅ローンに対する保証	7百万円	7百万円
計	7百万円	7百万円

2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	114百万円	139百万円
支払手形	27百万円	21百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

当社グループの売上高は、主たる事業分野である電気設備工事業において、契約により第1四半期連結会計期間、第2四半期連結会計期間、第3四半期連結会計期間に比べ、第4四半期連結会計期間に工事の完成引渡しを行う割合が大きいことから、完成工事高が第4四半期連結会計期間に増加する傾向があるため、業績に季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	115百万円	118百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年4月27日 取締役会	普通株式	88	5	平成24年3月31日	平成24年6月11日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年4月30日 取締役会	普通株式	88	5	平成25年3月31日	平成25年6月10日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	電気設備工事	商品販売	計		
売上高					
外部顧客への売上高	16,434	6,279	22,713		22,713
セグメント間の内部売上高 又は振替高		163	163	163	
計	16,434	6,442	22,877	163	22,713
セグメント利益又は損失()	30	204	235	873	638

(注)1.セグメント利益又は損失()の調整額 873百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 873百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	電気設備工事	商品販売	計		
売上高					
外部顧客への売上高	16,634	6,432	23,066		23,066
セグメント間の内部売上高 又は振替高		261	261	261	
計	16,634	6,694	23,328	261	23,066
セグメント利益又は損失()	155	173	328	752	424

(注)1.セグメント利益又は損失()の調整額 752百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 752百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額	24.26円	15.92円
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(百万円)	431	283
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純損失金額(百万円)	431	283
普通株式の期中平均株式数(千株)	17,787	17,782

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月3日

株式会社弘電社

取締役会 御中

有限責任あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 浅井 満 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山邊 道明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社弘電社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社弘電社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。